

グローバル通信

2018. 3 vol.46

Ryukoku University
GLOCAL TSUSHIN

寒さも次第に和らぎ、春らしさを感じられる季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。グローバル通信 46 号では、今年度修士論文を執筆された院生の感想や今年度末で退職される先生方からのメッセージ、講演会のレポートなどを掲載しております。今年度も龍谷大学大学院地域公共人材総合研究プログラムでは様々な経験をお持ちの先生方や院生が集まり、多くの交流や学びが生まれました。また、協定先の皆様方にも講演会などで大変お世話になりました。新しい季節が始まりますが、体調に気をつけて元気にお過ごしください。

(編集部)

| | |
|----------------------------------|---|
| 明治 150 年。「地域力」・「市民力」で人口減少社会の克服を！ | 1 |
| 地域に必要とされる、つなぎ・引き出すという役割。 | 1 |
| 修士論文を書き終えて | 2 |
| 今年度で退職される先生の紹介 | 3 |
| 公開講演会レポート | 4 |
| 修了生の今 | 4 |
| 事務局インフォメーション | 4 |



明治150年。「地域力」・「市民力」で人口減少社会の克服を！

門川 大作
(京都市長)

世界に誇る歴史・文化都市京都。あらゆる都市特性の中で、私が未来に向かって特に大切にしていきたいのが、「地域力」・「市民力」です。

その原点は、今から 150 年前、明治期の京都にありました。1868 年の明治改元を機に、近代国家へと歩み始めた我が国。しかし、京都にとっては困難な時代の幕開けでした。千年以上続いた都の地位を失い、人口が 3 分の 2 に激減するという都市存亡の大きな危機に直面したのです。

この困難に立ち向かったのが、京都の町衆たちでした。5 年後、10 年後も見通せない状況の中、100 年後、200 年後の未来を見据え、「まちづくりは人づくりから」と地域で力を合わせ、全国初となる小学校、芸術大学、工業高校の創設、さらには琵琶湖疏水の建設など、次々と先進的な取組に挑戦。未来を担う人を育て、文化とものづくりの力を磨き、産業を興す。それらにより、今日に続く京都発展の礎を築きました。

今日の我が国は、深刻な人口減少社会を迎えようとしています。この困難を解決するためのヒントは、京都にこそあると私は思います。それは、かつて経験したことのない大きな困難に立ち向かい、未来を展望する“まちづくりの哲学”が根付いているからであります。京都の「地域力」・「市民力」を最大限発揮すれば、人口減少・東京一極集中などを打破する突破口を開くことができます。私はそう確信しています。

そしてこの龍谷大学大学院地域公共人材総合研究プログラムでは、開設以来、世界各地を研究のフィールドに、様々な地域の課題に真摯に向き合い、実践できる人材の育成に貢献し続けておられます。

明治改元 150 年の本年。本コースで様々な理論や経験を身に付けられた皆様と共に、京都が日本の地方創生をリードし、世界の平和に貢献していく。そんな決意を新たにしています。皆様、共々に力を合わせてまいりましょう！

結びに、貴学並びに貴プログラムの更なる発展と、修了生の皆様の御活躍を心から祈念いたします。

地域に必要とされる、つなぎ・引き出すという役割。

東 信史

(有限責任事業組合まちとしごと総合研究所代表)



まちとしごと総合研究所は、地域づくり・仕事づくりを専門とする民間発・市民発の地域のためのシンクタンクとして、京都をはじめ関西圏域を中心に、地域に必要な仕事・事業創出、調査研究、モデル・仕組みづくり、提言活動を行っています。現在は、各地で住民の皆さんと関わり合い、住まう人達が主体となり、主役になっていき、地域の困りごとを解決するプロジェクトづくりや自治体単位でのこれからの未来に向けた計画づくりを進めています。

さて、現在では「地域」または「地方」のことに、多くの若者たちも関心を持つようになり、大学を通じて学び場として選択をされることも増えてきました。そんななか、学生と地域の人との間に衝突が起こることもしばしば。同じ「地域を良くしたい」と思っている、その基準や価値観、方法に関して意見が食い違うことがあります。もちろん、学生だけでなく多様な人達が集まる場ではよく起きることです。そのとき、必要とされるのが関わる人たちの持つ良さを引き出し、繋ぎ合わせ、より良いプロセスを創り出せる人材です。

私たちは、これまで「ファシリテーター」として、多様な参加者が集まる場で、お互いの意見を尊重し合い、合意形成を進める話し合いを行ってきました。そのスキルや経験を、現在は本学のプログラムにて共有させて頂き、皆さんにファシリテーターを体験してもらっていますが、初めて経験される方、むしろ「話し合いをまとめるのは苦手だ」という方が多くいます。ただ、この体験を通じて「ひとりではなく、みんなでやってくこと」の持つパワーを体感して、「やってみたい・できるようになりたい」と継続的に学び、いま共に活躍して頂いている卒業生の方もいらっしゃいます。

このような講義での繋がりを体験して、改めて本プログラムに期待することは、自らの知識や経験を探求しつつも、ともに学ぶ仲間やこれから出会う様々な人達と、手を取り合い知見を共有し、これまでになかったパワーを活かし発揮し合えるための場づくりができる、そんな人材が増えていくことを願っています。

修士論文を書き終えて

2017年度 修士論文・課題研究題目一覧

| No. | 研究科名 | 氏名 | 論文題目 |
|-----|--------|-------|--|
| 1 | 法学研究科 | 白田 一彦 | 副業制限の緩和による雇用関係について -人事・労務管理の視点からのルールづくりを中心として- |
| 2 | 法学研究科 | 園 香代子 | 脳・心臓疾患の労災認定における労働保険審査制度と裁判所の事実認定の違い |
| 3 | 法学研究科 | 伊藤 圭之 | 情報化政策の変遷と情報化を担う自治体職員の育成・活用の問題 -地方自治体における「情報技術専門職」制度の検討を中心に- |
| 4 | 経営学研究科 | 古川 智裕 | 「観光まちづくり」の論理と実際 -地方都市の事例をふまえて- |
| 5 | 経営学研究科 | 尹 西子 | 日本における医療ツーリズムの現状と課題 -医療の国際ビジネス展開の実態から- |
| 6 | 経営学研究科 | 堀江 明 | 自治体産業政策と共通価値の創造 -CSVによる持続可能な仕組みづくり- |
| 7 | 政策学研究科 | 奥上 祐介 | 堺刃物産地における現代的課題と経営戦略 -堺打刃物職人の視点から- |
| 8 | 政策学研究科 | 赤松 喜和 | 環境に配慮した農業生産活動に対する日本型直接支払制度の現状分析 ~滋賀県「魚のゆりかご水田プロジェクト」を事例に~ |
| 9 | 政策学研究科 | 片桐 悠 | 里山の暮らしにおける主観的幸福 (subjective well-being) -宮津市上世屋地区における生活者の属性による比較を通して- |
| 10 | 政策学研究科 | 徳珍 昌輝 | 日本の地方自治体における地域産業政策としてのオープン・イノベーション |
| 11 | 政策学研究科 | 道盛 萌 | 日本的雇用慣行における賃金と社会保障に関する考察 ~非正規労働者の処遇改善、同一労働同一賃金実現に向けて~ |
| 12 | 政策学研究科 | 内田 香奈 | パートナーシップの進化プロセス -祇園祭ごみゼロ大作戦を事例に- |
| 13 | 政策学研究科 | 加藤 正樹 | 農村集落における農地集約化の合意形成過程の分析 -滋賀県米原市大野木集落を事例にして- |
| 14 | 政策学研究科 | 木下 知子 | 子どもへの長期的支援の観点から見た子どもの居場所事業の意義について -京都市内の子どもの居場所事業の事例から- |
| 15 | 政策学研究科 | 栗本 知子 | 公害教育のこれまでとこれからをESDの議論から検討する |
| 16 | 政策学研究科 | 田中 博之 | 旧村地域における自治組織のあり方と行政組織編成について -奈良市月ヶ瀬地区をモデルケースとした分析- |
| 17 | 政策学研究科 | 西 央成 | 地域社会と寺院をつなぐために教団が担う中間支援機能のあり方の考察 ~NPOに対する支援組織と比較して~ |
| 18 | 政策学研究科 | 宮嶋 啓太 | 公立野外活動施設における指定管理者制度導入の現状と課題 |
| 19 | 政策学研究科 | 向井 弘美 | 地域における公共マインドを持った政策プロフェッショナル集団の形成と育成に関する研究 -地域公共政策士をモデルとして- |
| 20 | 政策学研究科 | 鷺田 健太 | ポスト第三世代の博物館像 -地域博物館における連携の在り方と今後の方向性- |

白田 一彦 (法学研究科)

書き終えた今の気持ち

在籍5年、今年度が最終学年でした。研究テーマの「副業」に注目が集まるようになり、年度中に厚労省から促進に関するガイドライン等が示されることになっています（提出後ほどなく公表されました）。論文というかたちにできたことに、時機を感じます。私にとっては今だった、と。そして書き終えた今、これはひとつの区切り、これからが始まり、との思いがより強くなっています。研究の結論は、まだ先になりそうです。

後輩へのアドバイス

「章、節、款」の「款」にあたる程度の内容をまとめていた論文メモが、後で役に立ちました。いざ、文章にしようとなると、なかなか書けません。メモがあれば、書き出すきっかけになります。また、参考文献（検討対象とするもの、引用するもの、等）は自分なりの方法を見つけ、管理しておいてください。必要なときに、すぐ手元に取り出せないと、結局、使いものになりません。

尹 西子 (経営学研究科)

修士論文を書き終えて

留学生として、現在盛んである日本の観光業に関心を持っています。そのなかの少し特別な「医療ツーリズム」を取り上げ、考察してきました。研究計画書から修士論文までの道は、想像以上に大変で、時間の経過が早く感じました。医療ツーリズムは以前の名所旧跡を中心とする旅行と相当違うので、学術的に説明した上で、述べたいことを論理的に整理し、今後の可能性まで示すことが大変でしたが、挑戦しようと取り組みました。そこで、修論の要であると考えており、文字数などの制限もありますが、内容の濃い論文を仕上げたい一心で頑張りました。大学院には、全く異なる研究テーマを持った人が集まっていて、それぞれが自分のテーマを常に意識しながら意見交換しています。共通のテーマでも、人によって考え方がまるきり違うということを感じました。そのような環境の中で、素晴らしい先生方、学友の存在を励みにして努力することができました。皆さまに心から感謝申し上げます。

西 央成 (政策学研究科)

地域社会と寺院をつなぐために教団が担う中間支援機能のあり方の考察 ~ NPO に対する支援組織と比較して ~

思い返せば4月、教団の課題を論じてやるぞと鼻息荒くも、知識、文章力、そして残された時間が少ないことに心が折れかけました。しかし、立ち止まらない、躊躇わない、エンディングまで、泣くんじゃない(古い?)の精神で駆け抜けた10ヶ月。ご縁のあった皆さまとのやり取りが、全て栄養となって論文に染み込みました。まさに「振り向けば、ご恩を受けし人ばかり」。研究結果を実践へ活かす…ここからが勝負です。

今年度で退職される先生の紹介

ありがとうございました

地域公共人材総合研究プログラム運営委員長 白須 正

今年の3月末で、「地域公共人材総合研究特別演習」の指導教員としてお世話になった3人の先生が退職されます。

高橋先生には、毎年御担当いただき、私も就任以来2年間授業で御一緒させていただきました。国内外の社会経済の動向とともに、地域問題に対しても詳しく、受講生に対する論理的かつ的確な指導・助言は、受講生の大きな支えとなりました。

経営学研究科が本プログラムに参加したのは平成28年度からですが、重本先生は2年間、山西先生は初年度に御担当いただきました。このプログラムの特徴は、法学、政策学、経営学の3つの大学院が共同運営するところにあります。お二人のおかげで軌道に乗せることができました。

3人の先生におかれましては、大学を離れても、引き続き御支援、御指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

いろいろな人で世界は成り立っている－私の「大学」

法学部教授 高橋 進



1992年4月に法学部に政治学科を開設した時に着任してから26年経った。その政治学科は2011年に政策学部へ発展解消した。その時に政治学科にいた政策学系教員は政策学部に移ったが、国際政治・政治史関係教員は法学部に残り、法律学科1学科の中でやっていくことになった。西洋政治史専攻の私も法学部に残った。政策学部設置後、法学部政治学科時代からのNPO・地方行政コースは政策学研究科・法学研究科他の共同運営の地域公共人材コースへ発展し、地域に根ざした「グローバル」の理念を実践している。

私はもともと「地域」に関心を持っていたので、このコースの必修の特別演習を政策学部の先生方と一緒に担当してきた。そこで社会人とともに学ぶ中で「いろいろな人で世界は成り立っている」ことを実感した。それは、ゴリーキーが社会を「私の大学」と呼んだことに近いかもしれない。そんな広がりのある「大学」の一層の発展を期待している。

地域公共人材総合研究プログラム特別演習の魅力

経営学部教授 山西 万三



わずかな期間でしたが、地域公共人材総合研究プログラム特別演習を担当させていただきました。龍谷大学退職にあたりまして、白石先生や院生の皆さんとの学びを振り返って一言述べさせていただきます。

四文字熟語「温故知新」(論語、為政第二)「故(ふる)きを温(たず)ねて新しきを知れば、以て師となるべし」は、広辞苑(第6版)では、「(古い事柄も新しい事情もよく知っていて初めて人の師となるにふさわしいの意) 昔の物事を研究し吟味して、そこから新しい知識や見解をえること。ふるきをたずねて新しきを知る」とあります。

私は、この言葉を次のように独自解釈して、「温故知新は、単に過去に学び新しい知を得るという意味ではない。新しい知とは、どう幸せに生きるかについての知恵である。この知恵を教えあつて共有し、みんなの幸せを実現することこそ、本当の温故知新である」と考えています。

特別演習は、担当教員も院生もお互いが師になりあうことで成長していく「温故知新」の実践道場でした。メッセージです。「みんなの幸福を目指し、みんなの幸せを実現する人間になろう！」ありがとうございました。

退職にあたって

経営学部教授 重本 直利



2016年度から2年間、地域公共人材総合研究プログラム・特別演習を担当し、多様な分野・職種・専門の院生との議論は、私にとってたいへん有意義でした。資本主義社会では、一般的に言えば、資本の利益(利潤)をもたらすための営み(労働、管理など)が「生産的」であり、それ以外の営みは「非生産的」とみなされがちです。しかし、例えば日本経団連の「企業行動憲章」では、企業の社会的責任(CSR)に関わって「良き企業市民」という言葉が使用されています。利益追求のみではない企業の公共的・市民的役割を認めざるをえない時代であると言えます。「公共人材」は「経済人材」を包みこむ広がりのある言葉です。また「公共」の範囲は広がりのあるものですが「地域公共」という捉え方が特に重要と思います。地域社会(基礎自治体あるいは地域共同体)をベースにした「地域公共」の担い手の育成が現下の日本社会における喫緊の課題と思います。明治以降の「近代化」における中央集権体制が150年経った今も続いています。さらに1960年代以降の中央主導の高度経済成長のパラダイム(例えば「公共投資」、フォーディズム)の行き詰まり、中央からの「地方創生」の掛け声の中で、地域主導(地域主権、地域主義)のパラダイムを実践的に担う人材が求められています。独自の地域社会政策の立案とともに、特に地域中小企業経営をネットワーク化すること(地域社会に適合した独自の包括的な地域産業政策立案)が求められています。本プログラムの一層の充実・発展とプログラム生の各地域コミュニティでのご活躍を心より祈念いたします。

公開講演会レポート

地域リーダーシップ研究講演会

講師：谷畑英吾氏（湖南市長）
 テーマ：地方自治最前線
 ～やわらか未来あり～
 報告者：法学研究科修士1年
 伊藤圭之



湖南省が取り組むさまざまなユニークなまちづくりについて講演いただきました。谷畑市長は、甲西町長、湖南市長を歴任し、現職4期目を迎えられた現在なお、あらゆる方向に高いアンテナを張って、市民と協働し次々と新しいまちづくりのアイデアを具現化されておられます。地域リーダーシップの重要なポイントとして、まちが抱える様々な課題に新しい政策や事業を展開したり、逆に大ナタを振るって組織を改革するような積極的な「チャレンジ」を推奨するとともに、チャレンジする当事者は「責任者」として、関係者の合意形成、市民の理解・納得に責任を持つという、「チャレンジ」と「責任」のバランス感覚のお話印象に残りました。

先進的地域政策研究講演会

講師：市川岳仁氏（三重ダルク代表）
 加藤武士氏（木津川ダルク代表）
 テーマ：依存から回復へ
 -セルフヘルプとサポートの現在-



報告者：政策学研究科修士1年 鷺田健太

授業を通じ、私自身の薬物依存症に対する認識は変化しました。1つは、これまで薬物依存を個人的な関与の問題と捉えていましたが、当事者にとっては個人での解消が困難な「社会の問題」であり、社会とのつながりを作りながら回復をサポートする必要があると認識していることを知りました。もう1つは、薬物依存症患者は当事者感覚ではむしろ平時が不安定で、その解消に薬物を使用するということであり、三重ダルクの市川氏の「コントロールこそが本質、回復とはコントロール不能を受け入れること」との説明は意味深く感じました。薬物依存の背景には生来の器質や社会的孤立等の複合的要素が存在しており、我々はそのことを理解していく必要があるのだと思います。

修了生の今

木原 浩貴（京都府地球温暖化防止活動推進センター 2014年度修了）

修了で開けた新たなステップを、一歩ずつ

体を壊しそうなほど(!)充実した修士課程の1年間での学びは、私を新たなステップへと導いてくれました。

仕事においては、間違いなく企画書の質が上がりました。龍谷大学社会科学研究所のプロジェクトにも参加し、本の執筆にも名を連ねさせていただけました。龍谷大学や他大学で非常勤講師として学生の前に立つようにもなりました。そして、京都府立大学の博士後期課程にも進学しました。目が回るような忙しさですが、この上ない充実感の中で毎日過ごしています。

正直、この歳になって人生にこれほどの変化が起こるとは思っていませんでした。多くの学びと、自分を変えるチャンスを与えてくださった先生方や同期の皆さんには感謝してもしきれません。ご恩を社会にお返しできるよう取り組んで参ります。



事務局インフォメーション

●政策学研究科 海外フィールド研究・修士論文報告会

日時：2018年3月10日（土）10：30～13：00
 場所：龍谷大学深草学舎和顔館B103・B104教室

●入学式

日時：2018年4月1日（日）14：30～
 場所：龍谷大学深草学舎体育館

●学位授与式

日時：2018年3月17日（土）10：30～
 場所：龍谷大学深草学舎顕真館

地域公共人材総合研究プログラム ニュースター「グローバル通信」通巻46号 2018年3月

発行／龍谷大学大学院 地域公共人材総合研究プログラム
 連絡先／政策学部教務課
 TEL：075-645-2285 FAX：075-645-2101

H P / http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/
 編集／原雄貴、宮田澤、運動
 編集補助／河野英治、野村知未、片桐理美
 監修／グローバル通信編集委員会
 印刷／株式会社 田中プリント